

学校コード F127310108376

注3

設置年度 令和 4年度

計画の区分： 学部の設置

注1

認可

注2

滋慶医療科学大学 医療科学部

(必要がある場合) ○○専攻

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書学校法人大阪滋慶学園
令和4年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名

職名・氏名

シムキョクシチョウ タナカケンイチロウ
事務局次長 田中謙一郎

電話番号

06-6394-1617

(夜間)

06-6394-1617

e-mail

soumu@juhs.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「○○大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) ○○大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「○○大学」
- 学部の設置の場合：「○○大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「○○大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「○○短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「○○大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「○○大学大学院 ○○研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「○○大学大学院 ○○研究科 ○○専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「○○大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

医療科学部

＜臨床工学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	15
4. 既設大学等の状況	16
5. 教員組織の状況	19
6. 附帯事項等に対する履行状況等	31
7. その他全般的事項	33

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人大阪滋慶学園

(2) 大学名

滋慶医療科学大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒532-0004

大阪府大阪市淀川区宮原1-2-8

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ウキフネ クニヒコ) 浮舟 邦彦 (現職就任年月)		
学長	(チハラ クニヒロ) 千原 國宏 (令和3年4月1日)		
学部長	(チハラ クニヒロ) 千原 國宏 (令和3年4月1日)		
学科長等	(ヒロセ ミノル) 廣瀬 稔 (令和3年4月1日)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)

令和4年度に報告する内容 → (4)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください(作成方法は、事務連絡「令和4年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」を確認してください)。
 ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和4年度までの5年間)ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
医療科学部 臨床工学科 学士(臨床工学)	保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション学関係を除く。)	4 年	80 人	0 人	320 人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	-	-	-	-	-	-	80	-	80	-	-	-	0.22 倍	-	
志願者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	31	-	34	-	(-)	(-)			
受験者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	29	-	32	-	(-)	(-)			
合格者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	28	-	32	-	(-)	(-)			
B 入学者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	14	-	22	-	(-)	(-)			
入学定員超過率 B/A							0.17		0.27						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
 ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考	
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
1年次	- [-] (-)	14 [-] (-)	- [-] (-)	22 [-] (-)	- [-] (-)							
2年次	/		- [-] (-)	- [-] (-)	14 [-] (-)	- [-] (-)						
3年次			/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
4年次					/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)
計			- [-] (-)	- [-] (-)			- [-] (-)	- [-] (-)	14 [-] (-)	36 [-] (-)		

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	
令和元年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
令和2年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	14 人	0 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	0 人	- 人	
令和4年度	36 人	0 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	0 人	- 人	
			令和4年度	0 人	人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{14} = \boxed{0} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{36} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<医療科学部 臨床工学科>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	基礎ゼミⅠ	1前	1			1	2	4				
	基礎ゼミⅡ	1後	1			1	2	4				
	英語Ⅰ	1前	2			1						
	英語Ⅱ	1後	2			1						
	英語Ⅲ	2前		2		1						
	英語Ⅳ	2後		2		1						
	医療英語Ⅰ	3前		2		1						
	医療英語Ⅱ	4前		2		1						
	中国語Ⅰ	1前		2								1
	中国語Ⅱ	1後		2								1
	日本語の表現	1前		1								1
	哲学入門	1前		2								1
	クリティカル・シンキング	1後		1								1
	キャリアデザインⅠ	2前		2								1
	キャリアデザインⅡ	3前		1								1
	情報処理演習Ⅰ	1前		1				2				
	情報処理演習Ⅱ	1後		1				1				
	現代社会と保健・医療・福祉	1前		1			4					
	人間関係と家族	1後			2							1
	心理学入門	1後			2							1
教育学概論	1後			2							1	
医療と倫理	3前		2								1	
ボランティア論	1後			1							1	
健康・スポーツ実践Ⅰ	1前			1							1	
健康・スポーツ実践Ⅱ	1後			1							1	
社会学入門	1後			2							1	
経済学入門	1前			2							1	
経営学入門	1後			2							1	
法学入門	1後			2							1	
基礎生物学	1前		1			1						
基礎化学	1前		1			1						
基礎物理学	1前		1			1						
基礎数学	1前		1								1	
統計学入門	1前		2								1	
小計(34科目)	-		17	36		8	2	5			14	
専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ	1前	2			1						
	人体の構造と機能Ⅱ	1前	2			1						
	基礎医学実習	1前	1			2						
	医学概論	1後	1			1						
	病理学	1後	2			1						
	生化学	1後	2			1						
	臨床生理学	2前	2			1						
	薬理学	2前	2									1
	免疫学	2後	1									1
	臨床免疫学	3前	1			1						
	血液学	3前		1		1						
	看護学概論	3前	2									1
	公衆衛生学	4前	1			1						
	臨床検査総論	4前		1								1

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	基礎ゼミⅠ	1前	1			1	2	3				
	基礎ゼミⅡ	1後	1			1	2	3				
	英語Ⅰ	1前	2			1						
	英語Ⅱ	1後	2			1						
	英語Ⅲ(未開講)	2前		2		1						
	英語Ⅳ	2後		2		1						
	医療英語Ⅰ	3前		2		1						
	医療英語Ⅱ	4前		2		1						
	中国語Ⅰ	1前		2								1
	中国語Ⅱ	1後		2								1
	日本語の表現	1前		1								1
	哲学入門	1前		2								1
	クリティカル・シンキング	1後		1								1
	キャリアデザインⅠ	2前		2								1
	キャリアデザインⅡ	3前		1								1
	情報処理演習Ⅰ	1前		1					1			
	情報処理演習Ⅱ	1後		1					1			
	現代社会と保健・医療・福祉	1前		1			4					
	人間関係と家族	1後			2							1
	心理学入門	1前			2							1
教育学概論	1後			2							1	
医療と倫理	3前		2								1	
ボランティア論	1後			1							1	
健康・スポーツ実践Ⅰ	1前			1							2	
健康・スポーツ実践Ⅱ	1後			1							2	
社会学入門	1後			2							1	
経済学入門	1前			2							1	
経営学入門	1後			2							1	
法学入門	1前			2							1	
基礎生物学	1前		1			1						
基礎化学	1前		1			1						
基礎物理学	1前		1			1						
基礎数学	1前		1								1	
統計学入門	1前		2						1			
小計(34科目)	-		17	36		8	2	3			14	
専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ	1前	2			1						
	人体の構造と機能Ⅱ	1前	2			1						
	基礎医学実習	1後	1			2						
	医学概論	1後	1			1						
	病理学	1後	2			1						
	生化学	1後	2			1						
	臨床生理学	2前	2			1						
	薬理学	2前	2									1
	免疫学	2後	1									1
	臨床免疫学	3前	1			1						
	血液学	3前		1		1						
	看護学概論	3前	2									1
	公衆衛生学	4前	1			1						
	臨床検査総論	4前		1								1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	応用数学	1後	2					1				
	医用電気工学Ⅰ	1前	2					1				
	医用電気工学Ⅱ	1後	2					1				
	医用電気工学実験	1後	1					1		1		
	医用電子工学Ⅰ	2前	2			1						
	医用電子工学Ⅱ	2後	2			1						
	医用電子工学実験	2後	1			1				1		
	機械工学Ⅰ	2前	2			1						
	機械工学Ⅱ	2後	2			1						
	情報科学概論	1後	2			1						
	情報処理工学	2前	2								1	
	情報処理工学実習	2前	1								1	
	システム工学	2後	2				1					
	小計(27科目)	-	42	2	0	8	1	1		1		5
専門科目	臨床工学概論	1前	1			1						
	計測工学	2前	2			2						
	生体物性工学	2後	2				1					
	生体材料工学	3前	2				1					
	放射線工学概論	4前		1								1
	人工臓器概論	4後		1			1					
	医用機器学概論	1後	2			1						
	生体計測装置学	2前	2				1					
	生体計測装置学実習	2前	1				1				2	
	医用治療機器学	2後	2				1					
	医用治療機器学実習	2後	1				1				2	
	画像診断装置学	3前		1								1
	医用画像処理工学	4前		1								1
	血液浄化療法装置学Ⅰ	2前	2				1					
	血液浄化療法装置学Ⅱ	2後	1				1					
	血液浄化療法装置学実習	2後	1				1	2			2	
	体外循環装置学Ⅰ	2後	2				1					
	体外循環装置学Ⅱ	3前	1				1					
	体外循環装置学実習	3前	1				1				2	
	呼吸療法装置学Ⅰ	2後	2				1					
	呼吸療法装置学Ⅱ	3前	1				1					
	呼吸療法装置学実習	3前	1				1		1		2	
	生体機能代行装置学総合実習	3後	1				1	2			2	
	医用機器安全管理学Ⅰ	3前	2				1					
	医用機器安全管理学Ⅱ	3前	1				1					
	医用機器安全管理学実習	3前	1				1		1		2	
	医療安全工学	4前		1			1					
	関係法規	4前	1				1					
	臨床医学Ⅰ	2前	2				1					
	臨床医学Ⅱ	2後	2				1					
臨床医学Ⅲ	3前	2				2						
多職種連携概論	1後	1				1						
子一ム医療論	4前	1									1	
在宅医療と臨床工学技士	4後	1									1	
地域包括ケア論	4後	1									1	
保健医療福祉行政論	4後		2								1	
臨床実習	3後	4				4	2	3		2		
小計(37科目)	-	47	7	0	7	4	4		2		6	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	応用数学	1後	2					1				
	医用電気工学Ⅰ	1前	2					1				
	医用電気工学Ⅱ	1後	2					1				
	医用電気工学実験	1後	1					1		1		
	医用電子工学Ⅰ	2前	2				1					
	医用電子工学Ⅱ	2後	2				1					
	医用電子工学実験	2後	1				1			1		
	機械工学Ⅰ	2前	2				1					
	機械工学Ⅱ	2後	2				1					
	情報科学概論	1後	2				1					
	情報処理工学	2前	2								1	
	情報処理工学実習	2前	1								1	
	システム工学	2後	2					1				
	小計(27科目)	-	42	2	0	8	1	1		1		5
専門科目	臨床工学概論	1前	1			1						
	計測工学	2前	2			2						
	生体物性工学	2後	2				1					
	生体材料工学	3前	2				1					
	放射線工学概論	4前		1								1
	人工臓器概論	4後		1			1					
	医用機器学概論	1後	2				1					
	生体計測装置学	2前	2				1					
	生体計測装置学実習	2前	1				1				1	
	医用治療機器学	2後	2				1					
	医用治療機器学実習	2後	1				1				1	
	画像診断装置学	3前		1								1
	医用画像処理工学	4前		1								1
	血液浄化療法装置学Ⅰ	2前	2				1					
	血液浄化療法装置学Ⅱ	2後	1				1					
	血液浄化療法装置学実習	2後	1				1	2			2	
	体外循環装置学Ⅰ	2後	2				1					
	体外循環装置学Ⅱ	3前	1				1					
	体外循環装置学実習	3前	1				1				2	
	呼吸療法装置学Ⅰ	2後	2				1					
	呼吸療法装置学Ⅱ	3前	1				1					
	呼吸療法装置学実習	3前	1				1		1		2	
	生体機能代行装置学総合実習	3後	1				1	2			2	
	医用機器安全管理学Ⅰ	3前	2				1					
	医用機器安全管理学Ⅱ	3前	1				1					
	医用機器安全管理学実習	3前	1				1		1		2	
	医療安全工学	4前		1			1					
	関係法規	4前	1				1					
	臨床医学Ⅰ	2前	2				1					
	臨床医学Ⅱ	2後	2				1					
臨床医学Ⅲ	3前	2				2						
多職種連携概論	2後	1				1						
子一ム医療論	4前	1									1	
在宅医療と臨床工学技士	4後	1									1	
地域包括ケア論	4後	1									1	
保健医療福祉行政論	4後		2								1	
臨床実習	3後	4				4	2	3		2		
小計(37科目)	-	47	7	0	7	5	3		2		6	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
発展科目	医工連携・専門発展	医療機器産業論	1後	1			1					
		医工連携論Ⅰ	3後		1		1					
		医工連携論Ⅱ	4前		1		1					
		企業実習	3後		2		2	3	4		2	
		臨床工学特論Ⅰ	4前		1							1
		臨床工学特論Ⅱ	4前		1							1
		臨床工学特論Ⅲ	4後		1							1
		臨床工学特論Ⅳ	4後		1							1
		感染症対策概論	4後	1								1
		救命救急医学概論	4前		1							1
		災害医療概論	4前		1							1
	情報・データサイエンス	データサイエンス概論	3前	1								1
		人工知能概論	4前		1							1
		多変量解析入門	4前		2			1				
		統計モデル論	4後		1				1			
		医療福祉とデータサイエンス	4後		1							1
		医療情報システム概論	4後		1					1		
		知的財産権概論	4前		1							1
	総合	専門ゼミⅠ	2前	1			8	5	5			
		専門ゼミⅡ	2後	1			8	5	5			
		専門ゼミⅢ	3前		1		8	3	1			
		専門ゼミⅣ	3後		1		8	3	1			
		卒業研究	4通	4			7	6	4			
小計(23科目)	-	9	19		9	6	5		2	9		
合計(121科目)	-	115	64		13	6	5		3	32		
卒業要件及び履修方法												
必修科目を計115単位と基礎科目の選択科目から6単位以上(うち人間と社会の理解から4単位以上)、発展科目の選択科目から6単位以上、このほか全選択科目の中から1単位以上を修得し、合計128単位以上修得すること (履修科目の登録の上限:24単位(学期)、48単位(年間))												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
発展科目	医工連携・専門発展	医療機器産業論	2前	1			1					
		医工連携論Ⅰ	3後		1		1					
		医工連携論Ⅱ	4前		1		1					
		企業実習	3後		2		2	3	4		2	
		臨床工学特論Ⅰ	4前		1							1
		臨床工学特論Ⅱ	4前		1							1
		臨床工学特論Ⅲ	4後		1							1
		臨床工学特論Ⅳ	4後		1							1
		感染症対策概論	4後	1								1
		救命救急医学概論	4前		1							1
		災害医療概論	4前		1							1
	情報・データサイエンス	データサイエンス概論	3前	1								1
		人工知能概論	4前		1							1
		多変量解析入門	4前		2			1				
		統計モデル論	4後		1				1			
		医療福祉とデータサイエンス	4後		1							1
		医療情報システム概論	4後		1					1		
		知的財産権概論	4前		1							1
	総合	専門ゼミⅠ	2前	1			8	4	3			
		専門ゼミⅡ	2後	1			8	4	3			
		専門ゼミⅢ	3前		1		8	3	1			
		専門ゼミⅣ	3後		1		8	3	1			
		卒業研究	4通	4			7	6	4			
小計(23科目)	-	9	19		9	7	4		2	9		
合計(121科目)	-	115	64		13	7	4		3	32		
卒業要件及び履修方法												
必修科目を計115単位と基礎科目の選択科目から6単位以上(うち人間と社会の理解から4単位以上)、発展科目の選択科目から6単位以上、このほか全選択科目の中から1単位以上を修得し、合計128単位以上修得すること (履修科目の登録の上限:24単位(学期)、48単位(年間))												

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	基礎ゼミⅠ	1前	1			1	2	3				
	基礎ゼミⅡ	1後	1			1	2	3				
	英語Ⅰ	1前	2			1						
	英語Ⅱ	1後	2			1						
	英語Ⅲ	2前		2		1						
	英語Ⅳ	2後		2		1						
	医療英語Ⅰ	3前		2		1						
	医療英語Ⅱ	4前		2		1						
	中国語Ⅰ	1前		2								1
	中国語Ⅱ	1後		2								1
	日本語の表現	1前		1								1
	哲学入門	1前		2								1
	クリティカル・シンキング	1後		1								1
	キャリアデザインⅠ	2前		2								1
	キャリアデザインⅡ	3前		1								1
	情報処理演習Ⅰ	1前		1					1			
	情報処理演習Ⅱ	1後		1					1			
	現代社会と保健・医療・福祉	1前		1			4					
	人間関係と家族	1後			2							1
	心理学入門	1後			2							1
	教育学概論(未開講)	1後			2							1
	医療と倫理	3前		2								1
	ボランティア論	1後			1							1
	健康・スポーツ実践Ⅰ	1前			1							2
	健康・スポーツ実践Ⅱ	1後			1							2
	社会学入門	1後			2							1
	経済学入門	1前			2							1
	経営学入門	1後			2							1
	法学入門	1後			2							1
	自然科学の基礎	基礎生物学	1前	1								1
		基礎化学	1前	1			1					
		基礎物理学	1前	1			1					
		基礎数学	1前	1								1
		統計学入門	1前	2								1
	小計(34科目)	-	17	36		7	2	3			16	
専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ	1前	2			1						
	人体の構造と機能Ⅱ	1前	2									1
	基礎医学実習	1後	1			2						
	医学概論	1後	1			1						
	病理学	1後	2			1						
	生化学	1後	2			1						
	臨床生理学	2前	2			1						
	薬理学	2前	2									1
	免疫学	2後	1									1
	臨床免疫学	3前	1			1						
	血液学	3前		1		1						
	看護学概論	3前	2									1
	公衆衛生学	4前	1			1						
	臨床検査総論	4前		1								1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	応用数学	1後	2					1				
	医用電気工学Ⅰ	1前	2					1				
	医用電気工学Ⅱ	1後	2					1				
	医用電気工学実験	1後	1					1				
	医用電子工学Ⅰ	2前	2			1						
	医用電子工学Ⅱ	2後	2			1						
	医用電子工学実験	2後	1			1				1		
	機械工学Ⅰ	2前	2			1						
	機械工学Ⅱ	2後	2			1						
	情報科学概論	1後	2			1						
	情報処理工学	2前	2									1
	情報処理工学実習	2前	1									1
	システム工学	2後	2				1					
	小計(27科目)		-	42	2	0	7	1	1		1	6
専門科目	医学生体工学	臨床工学概論	1前	1			1					
		計測工学	2前	2			2					
		生体物性工学	2後	2				1				
		生体材料工学	3前	2				1				
		放射線工学概論	4前		1							1
		人工臓器概論	4後		1			1				
	医用機器学	医用機器学概論	1後	2			1					
		生体計測装置学	2前	2				1				
		生体計測装置学実習	2前	1				1			2	
		医用治療機器学	2後	2				1				
		医用治療機器学実習	2後	1				1			2	
		画像診断装置学	3前		1							1
		医用画像処理工学	4前		1							1
	生体機能代行技術学	血液浄化療法装置学Ⅰ	2前	2				1				
		血液浄化療法装置学Ⅱ	2後	1				1				
		血液浄化療法装置学実習	2後	1				1	2		2	
		体外循環装置学Ⅰ	2後	2				1				
		体外循環装置学Ⅱ	3前	1				1				
		体外循環装置学実習	3前	1				1			2	
		呼吸療法装置学Ⅰ	2後	2			1					
		呼吸療法装置学Ⅱ	3前	1			1					
		呼吸療法装置学実習	3前	1			1		1		2	
		生体機能代行装置学総合実習	3後	1				1	2		2	
	医用安全管理学	医用機器安全管理学Ⅰ	3前	2			1					
		医用機器安全管理学Ⅱ	3前	1			1					
		医用機器安全管理学実習	3前	1			1		1		2	
		医療安全工学 関係法規	4前 4前	 1	1		1 1					
	関連臨床医学	臨床医学Ⅰ	2前	2			1					
		臨床医学Ⅱ	2後	2			1					
		臨床医学Ⅲ	3前	2			2					
	地域・連携	多職種連携概論	2後	1			1					
		子一ム医療論	4前	1								1
		在宅医療と臨床工学技士	4後	1								1
		地域包括ケア論	4後	1								1
		保健医療福祉行政論	4後		2							1
	臨床実習	臨床実習	3後	4			4	2	3		2	
	小計(37科目)		-	47	7	0	7	4	4		2	6

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
発展科目	医療機器産業論	2前	1				1						
	医工連携論Ⅰ	3後		1			1						
	医工連携論Ⅱ	4前		1			1						
	企業実習	3後		2		2	3	4		2			
	臨床工学特論Ⅰ	4前		1							1		
	臨床工学特論Ⅱ	4前		1							1		
	臨床工学特論Ⅲ	4後		1							1		
	臨床工学特論Ⅳ	4後		1							1		
	感染症対策概論	4後	1								1		
	救命救急医学概論	4前		1							1		
	災害医療概論	4前		1							1		
	情報・データサイエンス	データサイエンス概論	3前	1									1
		人工知能概論	4前		1								1
		多変量解析入門	4前		2			1					
		統計モデル論	4後		1				1				
		医療福祉とデータサイエンス	4後		1								1
		医療情報システム概論	4後		1					1			
		知的財産権概論	4前		1								1
	総合	専門ゼミⅠ	2前	1			8	5	5				
		専門ゼミⅡ	2後	1			8	5	5				
		専門ゼミⅢ	3前		1		8	3	1				
		専門ゼミⅣ	3後		1		8	3	1				
		卒業研究	4通	4			7	6	4				
小計(23科目)	-	9	19		9	6	5		2	9			
合計(121科目)	-	115	64		13	6	5		3	32			
卒業要件及び履修方法													
必修科目を計115単位と基礎科目の選択科目から6単位以上(うち人間と社会の理解から4単位以上)、発展科目の選択科目から6単位以上、このほか全選択科目の中から1単位以上を修得し、合計128単位以上修得すること (履修科目の登録の上限:24単位(学期)、48単位(年間))													

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和3年度】

- ・当年度においては、学生数が少ないため担当教員数を減じて教育の質を十分に保てるとの理由により、「基礎ゼミⅠ」と「基礎ゼミⅡ」の専任教員等の配置をそれぞれ「教授1、准教授2、講師4」の計7名から「教授1、准教授2、講師3」の計6名に変更。
- ・当年度においては、学生数が少ないためクラスを分けずに1クラスで授業を行うことになったため、「情報処理演習Ⅰ」の専任教員等の配置を「講師2」から「講師1」に変更。
- ・自己都合により担当専任教員の入職が4か月遅れることとなり、令和3年度は当該教員が非常勤講師として担当することとなったため、当該教員に係る前期開講科目である「基礎生物学」と「人体の構造と機能Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
また、当該教員を含む2名の専任教員が担当する「基礎医学実習」について、教育効果、関連科目（人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ）との順次性、時間割、教員負担、科目配置の全体バランス等を総合的に検証した結果、当該科目の開講時期を「1前」から「1後」に変更。
- ・自己都合により「健康・スポーツ実践Ⅰ」と「健康・スポーツ実践Ⅱ」の担当教員が就任辞退したため、教員等の配置を「兼任1」から「兼任2（オムニ）」に変更。
- ・当年度においては、学生数が少ないため助手を配置しなくても教育の質を十分に保てるとの理由により、当年度の措置として「医用電気工学実験」の専任教員等の配置を「講師1、助手1」の計2名から「講師1」の計1名に変更。
- ・教育効果、時間割、科目配置の全体バランス等を総合的に検証した結果、「多職種連携概論」と「医療機器産業論」の開講時期をそれぞれ「1後」から「2後」、「1後」から「2前」に変更。

【令和4年度】

- ・当年度においては、学生数が少ないため担当教員数を減じて教育の質を十分に保てるとの理由により、当年度の措置として次の科目の専任教員等の配置を変更。
 - 基礎ゼミⅠ：「教授1、准教授2、講師4」計7名⇒「教授1、准教授2、講師3」計6名
 - 基礎ゼミⅡ：「教授1、准教授2、講師4」計7名⇒「教授1、准教授2、講師3」計6名
 - 専門ゼミⅠ：「教授8、准教授5、講師5」計18名⇒「教授8、准教授4、講師3」計15名
 - 専門ゼミⅡ：「教授8、准教授5、講師5」計18名⇒「教授8、准教授4、講師3」計15名
 - 医用電気工学実験：「講師1、助手1」計2名⇒「講師1」計1名
 - 医用電子工学実験：「教授1、助手1」計2名⇒「教授1」計1名
 - 生体計測装置学実習：「准教授1、助手2」計3名⇒「准教授1」計1名
 - 医用治療機器学実習：「准教授1、助手2」計3名⇒「准教授1」計1名
 - 血液浄化療法装置学実習：「准教授1、講師2、助手2」計5名⇒「准教授1、講師2」計3名
- ・学生数が少ないためクラスを分けずに1クラスで授業を行うことになったため、「情報処理演習Ⅰ」の専任教員等の配置を「講師2」から「講師1」に変更。
- ・自己都合により「健康・スポーツ実践Ⅰ」と「健康・スポーツ実践Ⅱ」の担当教員が就任辞退したため、教員等の配置を「兼任1」から「兼任2（オムニ）」に変更。
- ・自己都合により「統計学入門」の担当教員が辞任したため、教員等の配置を「兼任1」から「講師1」に変更。
- ・教育効果、関連科目との順次性、時間割、教員負担、科目配置の全体バランス等を総合的に検証した結果、次の科目の開講時期を変更。
 - 心理学入門：「1後」⇒「1前」
 - 法学入門：「1後」⇒「1前」
 - 基礎医学実習：「1前」⇒「1後」
 - 多職種連携概論：「1後」⇒「2後」
 - 医療機器産業論：「1後」⇒「2前」

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
75 科目	46 科目	科目	121 科目	75 科目 [0]	46 科目 [0]	科目 [0]	121 科目 [0]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{121} = \boxed{} 0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大阪ハイテクノロジー専門学校 大阪保健福祉専門学校 大阪医療看護専門学校 運動場用地は校舎敷地と別地（公共交通機関利用で40分弱）			
	校舎敷地	0㎡	1,472.59㎡	4,843.86㎡	6,316.45㎡				
	運動場用地	0㎡	1,918.95㎡	0㎡	1,918.95㎡				
	小 計	0㎡	3,391.54㎡	4,843.86㎡	8,235.40㎡				
	そ の 他	0㎡	0㎡	0㎡	0㎡				
	合 計	0㎡	3,391.54㎡	4,843.86㎡	8,235.40㎡				
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大阪ハイテクノロジー専門学校 大阪保健福祉専門学校と共用				
	5,074.11㎡ (5,074.11㎡)	1,789.87㎡ (1,789.87㎡)	12,656.38㎡ (12,656.38㎡)	19,520.36㎡ (19,250.36㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	8 室	6 室	6 室	1 室 (補助職員 0人)	0 室 (補助職員 0人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	医療科学部 臨床工学科			22 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	図書冊数については、 教員研究費や科研費による購入や毎年度の若干の整備により当初計画より若干数増加。	
	医療科学部	16,400 [2,800] 15,058 [2,692] (15,709 [2,724]) (15,058 [2,692])	96 [41] (96 [41])	29 [23] (29 [23])	27 (27)	914 (914)	22 (22)		
	計	16,400 [2,800] 15,058 [2,692] (15,709 [2,724]) (15,058 [2,692])	96 [41] (96 [41])	29 [23] (29 [23])	27 (27)	914 (914)	22 (22)		
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数				
	475.18㎡		89		22,528				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
	0㎡		体育実習室 (218 ㎡)						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当り研究費等	30千円	30千円	図書購入費	37,281千円	18,000千円	18,000千円	
		共同研究費等	2,000千円	2,000千円	設備購入費	46,838千円	1,000千円	1,000千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		16,000千円	14,000千円	14,000千円	14,000千円	千円	千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要		雑収入等						

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和4年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(4)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学 の 名 称	滋慶医療科学大学						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備 考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
医療科学部	4	80	0	320	—	0.22	0.27	—	令和3	—	
臨床工学科	4	80	0	320	学士 (臨床工学)	0.22	0.27	—	令和3	大阪市淀川区宮原1-2-8	
大学全体	—	80	—	320	—	—	—	—	—	—	

大学の名称	滋慶医療科学大学大学院						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
医療管理学研究科	2	24	0	48	修士 (医療安全管理学)	0.85	0.87	—	平成23	大阪市淀川区宮原1-2-8	
大学院全体	-	24	-	48	-	-	-	-	-	-	

大学の名称	〇〇短期大学						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
該当なし	年	人	年次人	人		倍	倍				

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学、大学院、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<医療科学部 臨床工学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】から【令和4年度】までの表が1ページの幅に入るように設定していますので、セルの列の幅は変えないでください。なお、5年以上の修業年限の学部等や完成年度後の報告で、6つ以上の表を報告しなければならない場合は、別途ご相談ください。

【認可時又は届出時】			【令和3年度】			【令和4年度】		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	千原 國宏 (74) <令和3年4月> 工学博士	専	教授	千原 國宏 (75) <令和3年4月> 工学博士	専	教授	千原 國宏 (76) <令和3年4月> 工学博士
		計測工学※			計測工学※			計測工学※
専	教授	廣瀬 稔 (65) <令和3年4月> 博士(医学)	専	教授	廣瀬 稔 (66) <令和3年4月> 博士(医学)	専	教授	廣瀬 稔 (67) <令和3年4月> 博士(医学)
		現代社会と保健・医療・福祉※ 臨床工学概論 呼吸療法装置学Ⅰ 呼吸療法装置学Ⅱ 呼吸療法装置学実習 医療安全工学 関係法規 臨床実習 企業実習 卒業研究			現代社会と保健・医療・福祉※ 臨床工学概論 呼吸療法装置学Ⅰ 呼吸療法装置学Ⅱ 呼吸療法装置学実習 医療安全工学 関係法規 臨床実習 企業実習 卒業研究			現代社会と保健・医療・福祉※ 臨床工学概論 呼吸療法装置学Ⅰ 呼吸療法装置学Ⅱ 呼吸療法装置学実習 医療安全工学 関係法規 臨床実習 企業実習 卒業研究
専	教授	山東 勤弥 (65) <令和3年4月> 医学博士	専	教授	山東 勤弥 (66) <令和3年4月> 医学博士	専	教授	山東 勤弥 (67) <令和3年4月> 医学博士
		現代社会と保健・医療・福祉※ 人体の構造と機能Ⅰ 公衆衛生学 臨床医学Ⅰ 臨床医学Ⅲ※ 臨床実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ			現代社会と保健・医療・福祉※ 人体の構造と機能Ⅰ 公衆衛生学 臨床医学Ⅰ 臨床医学Ⅲ※ 臨床実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ			現代社会と保健・医療・福祉※ 人体の構造と機能Ⅰ 公衆衛生学 臨床医学Ⅰ 臨床医学Ⅲ※ 臨床実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ
専	教授	雨海 照祥 (63) <令和3年4月> 博士(医学)	専	教授	雨海 照祥 (64) <令和3年4月> 博士(医学)	専	教授	雨海 照祥 (65) <令和3年4月> 博士(医学)
		現代社会と保健・医療・福祉※ 病理学 医学概論 臨床医学Ⅱ 臨床医学Ⅲ※ 臨床実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ			現代社会と保健・医療・福祉※ 病理学 医学概論 臨床医学Ⅱ 臨床医学Ⅲ※ 臨床実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ			現代社会と保健・医療・福祉※ 病理学 医学概論 臨床医学Ⅱ 臨床医学Ⅲ※ 臨床実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ
専	教授	上農 喜朗 (65) <令和3年4月> 博士(医学)			<就任辞退>			<就任辞退>
		臨床生理学 臨床免疫学						
専	教授	和佐 勝史 (65) <令和3年4月> 博士(医学)	専	教授	和佐 勝史 (66) <令和3年4月> 博士(医学)	専	教授	和佐 勝史 (67) <令和3年4月> 博士(医学)
		現代社会と保健・医療・福祉※ 多職種連携概論			現代社会と保健・医療・福祉※ 多職種連携概論			現代社会と保健・医療・福祉※ 多職種連携概論
専	教授	木村 文隆 (61) <令和3年4月> 博士(医学)	専	教授	木村 文隆 (62) <令和3年8月> 博士(医学)	専	教授	木村 文隆 (63) <令和3年8月> 博士(医学)
		基礎生物学 人体の構造と機能Ⅱ 基礎医学実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ			基礎生物学 人体の構造と機能Ⅱ 基礎医学実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ			基礎生物学 人体の構造と機能Ⅱ 基礎医学実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ
			兼任	講師	木村 文隆 (62) <令和3年4月> 博士(医学)			
					基礎生物学 人体の構造と機能Ⅱ			
専	教授	山本 英樹 (49) <令和3年4月> 博士(医学)	専	教授	山本 英樹 (50) <令和3年4月> 博士(医学)	専	教授	山本 英樹 (51) <令和3年4月> 博士(医学)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 基礎化学 基礎医学実習 生化学 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 基礎化学 基礎医学実習 生化学 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 基礎化学 基礎医学実習 生化学 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究
専	教授	辻本 浩章 (65) <令和3年4月> 工学博士	専	教授	辻本 浩章 (66) <令和3年4月> 工学博士	専	教授	辻本 浩章 (67) <令和3年4月> 工学博士
		医用電子工学Ⅰ 医用電子工学Ⅱ 医用電子工学実験 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究			医用電子工学Ⅰ 医用電子工学Ⅱ 医用電子工学実験 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究			医用電子工学Ⅰ 医用電子工学Ⅱ 医用電子工学実験 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究
専	教授	川越 栄子 (65) <令和3年4月> 文学修士	専	教授	川越 栄子 (66) <令和3年4月> 文学修士	専	教授	川越 栄子 (67) <令和3年4月> 文学修士
		英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ 医療英語Ⅰ 医療英語Ⅱ			英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ 医療英語Ⅰ 医療英語Ⅱ			英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ 医療英語Ⅰ 医療英語Ⅱ

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	小鎌 幸雄 (67) <令和3年4月> 工学博士	専	教授	小鎌 幸雄 (68) <令和3年4月> 工学博士	専	教授	小鎌 幸雄 (69) <令和3年4月> 工学博士
		基礎物理学 機械工学Ⅰ 機械工学Ⅱ 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究			基礎物理学 機械工学Ⅰ 機械工学Ⅱ 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究			基礎物理学 機械工学Ⅰ 機械工学Ⅱ 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究
専	教授	大石 晴樹 (66) <令和3年4月> 工学博士	専	教授	大石 晴樹 (67) <令和3年4月> 工学博士	専	教授	大石 晴樹 (68) <令和3年4月> 工学博士
		血液学 情報科学概論 計測工学※ 企業実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究			血液学 情報科学概論 計測工学※ 企業実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究			血液学 情報科学概論 計測工学※ 企業実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究
専	教授	吉田 靖 (62) <令和3年4月> 専門学校卒※	専	教授	吉田 靖 (63) <令和3年4月> 専門学校卒※	専	教授	吉田 靖 (64) <令和3年4月> 専門学校卒※
		医用機器学概論 医用機器安全管理学Ⅰ 医用機器安全管理学Ⅱ 医用機器安全管理学実習 臨床実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究			医用機器学概論 医用機器安全管理学Ⅰ 医用機器安全管理学Ⅱ 医用機器安全管理学実習 臨床実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究			臨床生理学 医用機器学概論 医用機器安全管理学Ⅰ 医用機器安全管理学Ⅱ 医用機器安全管理学実習 臨床実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究
専	准教授	藤堂 敦 (42) <令和3年4月> 博士(応用情報科学)	専	准教授	藤堂 敦 (43) <令和4年4月> 博士(応用情報科学)	専	准教授	<就任辞退>
		医用治療機器学 医用治療機器学実習 血液浄化療法装置学Ⅰ 血液浄化療法装置学Ⅱ 血液浄化療法装置学実習 臨床実習 多変量解析入門 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究			医用治療機器学 医用治療機器学実習 血液浄化療法装置学Ⅰ 血液浄化療法装置学Ⅱ 血液浄化療法装置学実習 臨床実習 多変量解析入門 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究			
専	准教授	平井 三友 (63) <令和3年4月> 博士(工学)	専	准教授	平井 三友 (64) <令和3年4月> 博士(工学)	専	准教授	平井 三友 (65) <令和3年4月> 博士(工学)
		システム工学 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究			システム工学 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究			システム工学 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究
専	准教授	戸田 満秋 (43) <令和3年4月> 博士(工学)	専	准教授	戸田 満秋 (44) <令和3年4月> 博士(工学)	専	准教授	戸田 満秋 (45) <令和3年4月> 博士(工学)
		生体物性工学 生体材料工学 卒業研究			生体物性工学 生体材料工学 卒業研究			生体物性工学 生体材料工学 卒業研究
専	准教授	黒光 弘幸 (53) <令和3年4月> 修士(工学)※	専	准教授	黒光 弘幸 (54) <令和3年4月> 修士(工学)※	専	准教授	黒光 弘幸 (55) <令和3年4月> 修士(工学)※
		人工臓器概論 体外循環装置学Ⅰ 体外循環装置学Ⅱ 体外循環装置学実習 生体機能代行装置学総合実習 臨床実習 企業実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 卒業研究			人工臓器概論 体外循環装置学Ⅰ 体外循環装置学Ⅱ 体外循環装置学実習 生体機能代行装置学総合実習 臨床実習 企業実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 卒業研究			人工臓器概論 体外循環装置学Ⅰ 体外循環装置学Ⅱ 体外循環装置学実習 生体機能代行装置学総合実習 臨床実習 企業実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 卒業研究
専	准教授	川久保 芳文 (49) <令和3年4月> 博士(学術)	専	准教授	川久保 芳文 (50) <令和3年4月> 博士(学術)	専	准教授	川久保 芳文 (51) <令和3年4月> 博士(学術)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 医療機器産業論 医工連携論Ⅰ 医工連携論Ⅱ 企業実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 医療機器産業論 医工連携論Ⅰ 医工連携論Ⅱ 企業実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 医療機器産業論 医工連携論Ⅰ 医工連携論Ⅱ 企業実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究
専	准教授	島崎 拓則 (51) <令和3年4月> 修士(医科学)	専	准教授	島崎 拓則 (52) <令和3年4月> 博士(学術)	専	准教授	島崎 拓則 (53) <令和3年4月> 博士(学術)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 生体計測装置学 生体計測装置学実習 企業実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 生体計測装置学 生体計測装置学実習 企業実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 生体計測装置学 生体計測装置学実習 企業実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名
専任	講師	松井 智博 (44) <令和4年4月> 博士(応用情報科学)	専任	松井 智博 (45) <令和3年12月> 博士(応用情報科学)	専任	松井 智博 (46) <令和3年12月> 博士(応用情報科学)
		情報処理演習 I 呼吸療法装置学実習 生体機能代行装置学総合実習 臨床実習 企業実習 専門ゼミ I 専門ゼミ II 卒業研究		情報処理演習 I 呼吸療法装置学実習 生体機能代行装置学総合実習 臨床実習 企業実習 専門ゼミ I 専門ゼミ II 卒業研究	准教授	基礎ゼミ I 基礎ゼミ II 情報処理演習 I 血液浄化療法装置学 I 血液浄化療法装置学 II 血液浄化療法装置学実習 生体機能代行装置学総合実習 臨床実習 企業実習 専門ゼミ I 専門ゼミ II 卒業研究
兼任	講師	松井 智博 (44) <令和3年4月> 博士(応用情報科学)				
		情報処理演習 I				
専任	講師	淵脇 栄治 (57) <令和3年4月> 工学修士	専任	淵脇 栄治 (58) <令和3年4月> 工学修士	専任	淵脇 栄治 (59) <令和3年4月> 工学修士
		基礎ゼミ I 基礎ゼミ II 応用数学 医用電気工学 I 医用電気工学 II 医用電気工学実験 専門ゼミ I 専門ゼミ II 卒業研究		基礎ゼミ I 基礎ゼミ II 応用数学 医用電気工学 I 医用電気工学 II 医用電気工学実験 専門ゼミ I 専門ゼミ II 卒業研究		基礎ゼミ I 基礎ゼミ II 応用数学 医用電気工学 I 医用電気工学 II 医用電気工学実験 専門ゼミ I 専門ゼミ II 卒業研究
専任	講師	木田 奈々美 (44) <令和3年4月> 博士(保健学)	専任	木田 奈々美 (45) <令和3年4月> 博士(保健学)	専任	木田 奈々美 (46) <令和3年4月> 博士(保健学)
		基礎ゼミ I 基礎ゼミ II 情報処理演習 I 血液浄化療法装置学実習 生体機能代行装置学総合実習 臨床実習 企業実習 専門ゼミ I 専門ゼミ II 卒業研究		基礎ゼミ I 基礎ゼミ II 情報処理演習 I 血液浄化療法装置学実習 生体機能代行装置学総合実習 臨床実習 企業実習 専門ゼミ I 専門ゼミ II 卒業研究		基礎ゼミ I 基礎ゼミ II 情報処理演習 I 血液浄化療法装置学実習 生体機能代行装置学総合実習 臨床実習 企業実習 専門ゼミ I 専門ゼミ II 卒業研究
専任	講師	田中 智之 (41) <令和3年4月> 博士(応用情報科学)	専任	田中 智之 (42) <令和3年4月> 博士(応用情報科学)	専任	田中 智之 (43) <令和3年4月> 博士(応用情報科学)
		基礎ゼミ I 基礎ゼミ II 情報処理演習 II 血液浄化療法装置学実習 企業実習 統計モデル論 医療情報システム概論 専門ゼミ I 専門ゼミ II 卒業研究		基礎ゼミ I 基礎ゼミ II 情報処理演習 II 血液浄化療法装置学実習 企業実習 統計モデル論 医療情報システム概論 専門ゼミ I 専門ゼミ II 卒業研究		基礎ゼミ I 基礎ゼミ II 統計学入門 情報処理演習 II 血液浄化療法装置学実習 企業実習 統計モデル論 医療情報システム概論 専門ゼミ I 専門ゼミ II 卒業研究
専任	講師	篠原 智誉 (44) <令和3年4月> 修士(医療安全管理学)	専任	篠原 智誉 (45) <令和4年4月> 修士(医療安全管理学)	専任	篠原 智誉 (46) <令和5年4月> 修士(医療安全管理学)
		基礎ゼミ I 基礎ゼミ II 情報処理演習 II 医用機器安全管理学実習 臨床実習 企業実習 専門ゼミ I 専門ゼミ II 専門ゼミ III 専門ゼミ IV		基礎ゼミ I 基礎ゼミ II 情報処理演習 II 医用機器安全管理学実習 臨床実習 企業実習 専門ゼミ I 専門ゼミ II 専門ゼミ III 専門ゼミ IV		基礎ゼミ I 基礎ゼミ II 情報処理演習 II 医用機器安全管理学実習 臨床実習 企業実習 専門ゼミ I 専門ゼミ II 専門ゼミ III 専門ゼミ IV
兼任	講師	石松 一真 (45) <令和3年10月> 博士(人間科学)	兼任	石松 一真 (46) <令和3年10月> 博士(人間科学)	兼任	石松 一真 (47) <令和3年10月> 博士(人間科学)
		心理学入門		心理学入門		心理学入門
兼任	講師	山下 哲平 (39) <令和3年4月> 博士(工学)	兼任	山下 哲平 (40) <令和3年4月> 博士(工学)		<辞任>
		統計学入門		統計学入門		
兼任	講師	大石 雅子 (62) <令和4年4月> 博士(医学)	兼任	大石 雅子 (63) <令和4年4月> 博士(医学)	兼任	大石 雅子 (64) <令和4年4月> 博士(医学)
		薬理学		薬理学		薬理学
兼任	講師	狩俣 正雄 (69) <令和3年10月> 博士(経営学)	兼任	狩俣 正雄 (70) <令和3年10月> 博士(経営学)	兼任	狩俣 正雄 (71) <令和3年10月> 博士(経営学)
		経営学入門		経営学入門		経営学入門
兼任	講師	天野 敬子 (63) <令和6年10月> 修士(社会福祉学)	兼任	天野 敬子 (64) <令和6年10月> 修士(社会福祉学)	兼任	天野 敬子 (65) <令和6年10月> 修士(社会福祉学)
		地域包括ケア論		地域包括ケア論		地域包括ケア論
兼任	講師	張 蘭 (43) <令和3年4月> 修士(学術)	兼任	張 蘭 (44) <令和3年4月> 修士(学術)	兼任	張 蘭 (45) <令和3年4月> 修士(学術)
		中国語 I 中国語 II		中国語 I 中国語 II		中国語 I 中国語 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	武内 恵美子 (47) <令和3年4月> 博士(学術)	兼任	講師	武内 恵美子 (48) <令和3年4月> 博士(学術)	兼任	講師	武内 恵美子 (49) <令和3年4月> 博士(学術)
		日本語の表現			日本語の表現			日本語の表現
兼任	講師	桑原 英之 (42) <令和3年4月> 修士(文学)※	兼任	講師	桑原 英之 (43) <令和3年4月> 修士(文学)※	兼任	講師	桑原 英之 (44) <令和3年4月> 修士(文学)※
		クリティカル・シンキング 哲学入門			クリティカル・シンキング 哲学入門			クリティカル・シンキング 哲学入門
兼任	講師	宮津 聡子 (55) <令和4年4月> 理学士	兼任	講師	宮津 聡子 (56) <令和4年4月> 理学士	兼任	講師	宮津 聡子 (57) <令和4年4月> 理学士
		キャリアデザイン I キャリアデザイン II			キャリアデザイン I キャリアデザイン II			キャリアデザイン I キャリアデザイン II
兼任	講師	山本 桂子 (55) <令和3年10月> 修士(社会学)	兼任	講師	山本 桂子 (56) <令和3年10月> 修士(社会学)	兼任	講師	山本 桂子 (57) <令和3年10月> 修士(社会学)
		人間関係と家族 教育学概論			人間関係と家族 教育学概論			人間関係と家族 教育学概論
兼任	講師	吉田 秀和 (55) <令和3年10月> 文学修士※	兼任	講師	吉田 秀和 (56) <令和3年10月> 文学修士※	兼任	講師	吉田 秀和 (57) <令和3年10月> 文学修士※
		医療と倫理 社会学入門			医療と倫理 社会学入門			医療と倫理 社会学入門
兼任	講師	鈴木 操 (59) <令和3年4月> 体育学修士			<就任辞退>			<就任辞退>
		健康・スポーツ実践 I 健康・スポーツ実践 II						
			兼任	講師	佐藤 曜子 (40) <令和3年4月> 学士(教育学)	兼任	講師	佐藤 曜子 (41) <令和3年4月> 学士(教育学)
					健康・スポーツ実践 I ※ 健康・スポーツ実践 II ※			健康・スポーツ実践 I ※ 健康・スポーツ実践 II ※
			兼任	講師	織田 修輔 (33) <令和3年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	織田 修輔 (34) <令和3年4月> 修士(教育学)
					健康・スポーツ実践 I ※ 健康・スポーツ実践 II ※			健康・スポーツ実践 I ※ 健康・スポーツ実践 II ※
兼任	講師	村上 薫 (70) <令和3年4月> Master of Business Administration (経営学修士)(米国)	兼任	講師	村上 薫 (71) <令和3年4月> Master of Business Administration (経営学修士)(米国)	兼任	講師	村上 薫 (72) <令和3年4月> Master of Business Administration (経営学修士)(米国)
		経済学入門 保健医療福祉行政論			経済学入門 保健医療福祉行政論			経済学入門 保健医療福祉行政論
兼任	講師	出嶋 陽介 (49) <令和3年10月> 修士(法学)※	兼任	講師	出嶋 陽介 (50) <令和3年10月> 修士(法学)※	兼任	講師	出嶋 陽介 (51) <令和3年10月> 修士(法学)※
		法学入門			法学入門			法学入門
兼任	講師	前田 純一郎 (55) <令和3年4月> 修士(理学)	兼任	講師	前田 純一郎 (56) <令和3年4月> 修士(理学)	兼任	講師	前田 純一郎 (57) <令和3年4月> 修士(理学)
		基礎数学			基礎数学			基礎数学
兼任	講師	高見 清美 (59) <令和5年4月> 修士(学術)	兼任	講師	高見 清美 (60) <令和5年4月> 修士(学術)	兼任	講師	高見 清美 (61) <令和5年4月> 修士(学術)
		看護学概論			看護学概論			看護学概論
兼任	講師	渡邊 毅 (53) <令和4年4月> 博士(理学)	兼任	講師	渡邊 毅 (54) <令和4年4月> 博士(理学)	兼任	講師	渡邊 毅 (55) <令和4年4月> 博士(理学)
		情報処理工学 情報処理工学実習 データサイエンス概論			情報処理工学 情報処理工学実習 データサイエンス概論			情報処理工学 情報処理工学実習 データサイエンス概論
兼任	講師	星野 貴志 (43) <令和6年4月> 博士(保健学)	兼任	講師	星野 貴志 (44) <令和6年4月> 博士(保健学)	兼任	講師	星野 貴志 (45) <令和6年4月> 博士(保健学)
		放射線工学概論			放射線工学概論			放射線工学概論
兼任	講師	関谷 俊範 (38) <令和5年4月> 修士(保健学)	兼任	講師	関谷 俊範 (39) <令和5年4月> 修士(保健学)	兼任	講師	関谷 俊範 (40) <令和5年4月> 修士(保健学)
		画像診断装置学 医用画像処理工学			画像診断装置学 医用画像処理工学			画像診断装置学 医用画像処理工学
兼任	講師	木村 政義 (51) <令和6年4月> 修士(経営学)	兼任	講師	木村 政義 (52) <令和6年4月> 修士(経営学)	兼任	講師	木村 政義 (53) <令和6年4月> 修士(経営学)
		チーム医療論			チーム医療論			チーム医療論
兼任	講師	吉田 哲也 (51) <令和6年4月> 博士(工学)	兼任	講師	吉田 哲也 (52) <令和6年4月> 博士(工学)	兼任	講師	吉田 哲也 (53) <令和6年4月> 博士(工学)
		人工知能概論			人工知能概論			人工知能概論

(1) -②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

--

【令和2年度】

--

【令和3年度】

<ul style="list-style-type: none">・令和3年4月就任予定だった上農喜朗は就任辞退。・令和3年4月就任予定だった木村文隆は、就任時期が令和3年8月に変更。これに伴い、令和3年7月までは兼任講師として授業を担当。・令和3年4月就任予定だった藤堂敦、篠原智誉は、就任時期が令和4年4月に変更。・令和3年4月就任予定だった鈴木操（兼任）が就任辞退のため、佐藤曜子（兼任）と織田修輔（兼任）のオムニバス形式に変更。・令和3年10月就任予定だった山田健太（兼任）が就任辞退のため、藤本真由（兼任）に変更。

【令和4年度】

<ul style="list-style-type: none">・令和3年4月就任予定だった上農喜朗が就任辞退のため、吉田靖の担当科目を追加。（令和4年2月教員審査済）・令和4年4月就任予定だった藤堂敦は、就任辞退のため、松井智博の職位と担当科目を変更。（令和4年2月教員審査済）・令和4年4月就任予定だった篠原智誉は、就任時期が令和5年4月に変更。・令和4年3月に山下哲平（兼任）が辞任のため、田中智之の担当科目を追加。（令和4年2月教員審査済）

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は削除せず、斜線を入れてください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
21 名	11 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
13	6	5	0	24	3	12	6	3	0	21	0
(13)	(6)	(4)	(0)	(23)	(1)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
12	6	4	0	22	3	12	6	5	0	23	3
[Δ1]	[0]	[Δ1]	[0]	[Δ2]	[0]	[Δ1]	[0]	[0]	[0]	[Δ1]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
70 歳	1 名	3 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{22}{24} = \boxed{91.66} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{1}{21} = \boxed{4.76} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{3}{3} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) 専任教員数等

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導補助教員数
●●	●●	●●
	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計（A）	助手（A'）	教授	准教授	講師	助教	計（B）	助手（B'）
●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●
(●●)	(●●)	(●●)	(●●)	(●●)	(●●)						
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数				研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			
●●	●●	●●				●●	●●				
(●●)	(●●)	(●●)				(●●)	(●●)	(●●)			
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計（C）	助手（C'）	教授	准教授	講師	助教	計（D）	助手（D'）
●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●
[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数				研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			
●●	●●	●●				●●	●●				
[]	[]	[]				[]	[]	[]			

設置時の計画との増減数を[]内に記入してください。
(記入例: Δ1)

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

設置時の計画との増減数を[]内に記入してください。
(記入例: Δ1)

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（C））の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
●●	●●	●●
	歳	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{●●}{●●} = \#VALUE! \%$$

数式が入力されています。

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況（B）}} = \frac{●●}{●●} = \#VALUE! \%$$

数式が入力されています。

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C'）}}{\text{設置時の計画（A'）}} = \frac{●●}{●●} = \#VALUE! \%$$

数式が入力されています。

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要実務家教員数
●●	●●	●●
名	名	名

(注) ・ 専門職大学院に関し必要な事項について定める件(平成十五年三月三十一日)と、専門職大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件(平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号)により算出される教員数を記入してください。

設置時の計画について、()内に開設時の教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【専門職大学院】

設置時の計画						現在(報告時)の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●
(●●)	(●●)	(●●)	(●●)	(●●)	(●●)						
研究者教員数	実務家教員数	みなし専任教員数	講義のみ担当の教員数	研究者教員数	実務家教員数	みなし専任教員数	講義のみ担当の教員数				
●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●				
(●●)	(●●)	(●●)	(●●)	(●●)	(●●)	(●●)	(●●)				
現在(報告時)の完成年度時の状況						現在(報告時)の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●
[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]
研究者教員数	実務家教員数	みなし専任教員数	講義のみ担当の教員数	研究者教員数	実務家教員数	みなし専任教員数	講義のみ担当の教員数				
●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●				
[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]				

設置時の計画との増減数を[]内に記入してください。(記入例: Δ1)

設置時の計画との増減数を[]内に記入してください。(記入例: Δ1)

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在(報告時)の状況」には、報告年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: Δ1)
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: Δ1)
 ・ 「みなし専任教員数」には、「実務家教員数」に計上している実務家教員数のうち、みなし専任教員の教員数を計上してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢(歳)	報告時(上記(B))の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時(上記(C))の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
●●	●●	●●
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{\bullet\bullet}{\bullet\bullet} = \#VALUE! \%$$

数式が入力されています。

数式が入力されています。

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在(報告時)の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{\bullet\bullet}{\bullet\bullet} = \#VALUE! \%$$

数式が入力されています。

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{\bullet\bullet}{\bullet\bullet} = \#VALUE! \%$$

数式が入力されています。

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要実務家教員数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要な研究業績を有する実務家教員数
●●	●●	●●	●●
名	名	名	名

設置時の計画について、()内に開設時の教員数を記入してください。

設置時の計画との増減数を[]内に記入してください。(記入例:△1)

(注) ・ 専門職大学設置基準、専門職短期大学設置基準により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【専門職大学等】

設置時の計画						現在(報告時)の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●
(●●)	(●●)	(●●)	(●●)	(●●)	(●●)	(●●)	(●●)	(●●)	(●●)	(●●)	(●●)
専任教員数(専)	専任教員数(実専)	専任教員数(実(研))	みなし専任教員数		専任教員数(専)	専任教員数(実専)	専任教員数(実(研))	みなし専任教員数			
●●	●●	●●	●●		●●	●●	●●	●●			
(●●)	(●●)	(●●)	(●●)		(●●)	(●●)	(●●)	(●●)			
現在(報告時)の完成年度時の状況						現在(報告時)の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●
[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]
専任教員数(専)	専任教員数(実専)	専任教員数(実(研))	みなし専任教員数		専任教員数(専)	専任教員数(実専)	専任教員数(実(研))	みなし専任教員数			
●●	●●	●●	●●		●●	●●	●●	●●			
[]	[]	[]	[]		[]	[]	[]	[]			

設置時の計画との増減数を[]内に記入してください。(記入例:△1)

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在(報告時)の状況」には、報告年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例:1名減の場合:△1)
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例:1名減の場合:△1)
 ・ 「実専」は実務家教員、「実(研)」は研究能力を併せ有する実務家教員を計上してください。
 なお、みなし専任教員(実み)がいる場合は、必要に応じて各項目の教員数に計上してください。
 ・ 「みなし専任教員数」には、「実専」に計上している実務家教員数のうち、みなし専任教員の教員数を計上してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢(歳)	報告時(上記(B))の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時(上記(C))の教員うち、定年を延長して採用する教員数
●●	●●	●●
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{\bullet\bullet}{\bullet\bullet} = \#VALUE! \%$$

数式が入力されています。

数式が入力されています。

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在(報告時)の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{\bullet\bullet}{\bullet\bullet} = \#VALUE! \%$$

数式が入力されています。

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{\bullet\bullet}{\bullet\bullet} = \#VALUE! \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
1	教授	上農 喜朗	R3.4	必修	臨床生理学	①	R3.4、一身上の都合のため就任辞退（R3）						
				必修	臨床免疫学	③							
2	准教授	藤堂 敦	R3.10	必修	医用治療機器学	③	R3.10、一身上の都合のため就任辞退（R4）						
				必修	医用治療機器学実習	③							
				必修	血液浄化療法装置学Ⅰ	①							
				必修	血液浄化療法装置学Ⅱ	①							
				必修	血液浄化療法装置学実習	①							
				必修	臨床実習	①							
				選択	多変量解析入門	③							
				必修	専門ゼミⅠ	①							
				必修	専門ゼミⅡ	①							
				選択	専門ゼミⅢ	①							
				選択	専門ゼミⅣ	①							
				必修	卒業研究	①							
合計（D）					後任補充状況の集計（E）								
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）					
2	人	必修	11	科目	必修	8	科目	必修	0	科目	必修	3	科目
		選択	3	科目	選択	2	科目	選択	0	科目	選択	1	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	14	科目	計	10	科目	計	0	科目	計	4	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
		該当なし											
合計（F）					後任補充状況の集計（G）								
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）					
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）+（F）		後任補充状況の集計（E）+（G）										
辞任等した教員数	担当科目数の合計（a）+（b）+（c）	①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）								
2	必修	11	科目	必修	8	科目	必修	0	科目	必修	3	科目
	選択	3	科目	選択	2	科目	選択	0	科目	選択	1	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	14	科目	計	10	科目	計	0	科目	計	4	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{2}{24} = 8.33 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和3年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

1 人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
		該当なし				
合計				後任補充状況の集計		
辞任した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0 人	必修	0	科目	必修	0	科目
	選択	0	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

専任教員予定者のうち1名が自己都合により令和3年度の開設前に就任を辞退されることとなったが、担当科目は2科目のみであり、2年次以降の開設科目で、いずれも必修科目ではあるものの本学の教育課程におけるコア科目ではない。2科目のうち1科目は専任の教授が担当することとし既に教員審査を了している。もう1科目は現在調整中であるが、兼任講師により担当する方向で検討している。

令和3年度中に就任辞退となった教員に関しては、まず、専門ゼミⅠ～Ⅳと卒業研究・臨床実習は、多くの教員で分担して担当することになっており、特に1・2年仁学生数は少ないことから、特段の支障なく対応が可能である。血液浄化療法装置学Ⅰ、血液浄化療法装置学Ⅱ、血液浄化療法装置学実習の3科目については、専任の准教授が担当することとし、既に教員審査を了している。多変量解析入門については、4年次の選択科目であり、兼任講師により対応する方向で検討している。医用治療機器学、医用治療機器学実習については、専任教員による担当科目とすべく調整中の状況であり、早期に確定すべく対応していきたい。学生に対しては、状況について、年度初めのガイダンスで説明するほか、掲示や学内ネットワーク等で逐次周知を図っているところである。今後、状況の変更等があり次第、こうした方法で周知を図っていきたい。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区分	附帯事項等	履行状況	今後の実施計画
<p>認可時 (令和2年)</p>	<p>・「専門ゼミⅠ・Ⅱ」及び「専門ゼミⅢ・Ⅳ」について、配当年次や必修・選択の違いはあるものの、授業計画等はほぼ同一のものとなっており、教育課程上の位置付けが明らかではないことから、シラバス等に教育目的の違い等を明示するなどして、学生に対して当該科目の教育課程上の位置付けを適切に周知すること。 【助言事項】</p>	<p>該当科目は2年次、3年次の科目である。開設初年度（昨年度）に開講した「基礎ゼミ」の状況や在学生数等を勘案し、専門ゼミⅠ・Ⅱと専門ゼミⅢ・Ⅳの在り方や具体的な授業方法を学内で検証した。その上で、必修科目である専門ゼミⅠ・Ⅱは基礎ゼミの延長上の科目としての性格を強調することとし、一方、選択科目である専門ゼミⅢ・Ⅳは、より個別教員の研究面の性格を強めた内容とする予定である。学生に対しては、シラバスとともに追加資料の配布・説明会の開催等により十分に周知して実施している。</p>	<p>令和4年度における専門ゼミⅠ・Ⅱの実施状況等を踏まえつつ、次年度以降における専門ゼミⅠ・Ⅱと専門ゼミⅢ・Ⅳの在り方や具体的な授業方法等についてさらに検証を行い、改善を図っていく。</p>
	<p>・運動場が別地にあることから、教育に支障のないようにすることはもとより、学生の課外活動等に配慮すること。</p>	<p>令和3年度においては、新型コロナウイルス感染状況とともに、学生数が少ないことも踏まえ、「健康・スポーツ実践Ⅰ・Ⅱ」の授業科目を長期休暇中の集中講義の形式で実施した。</p> <p>当該授業において運動場を利用する場合は、密にならないような大きさのマイクロバスをチャーターし移動手段とした。</p> <p>なお、新型コロナウイルスの感染状況の影響もあり、令和3年度においてはクラブ活動等は行われなかった。</p>	<p>今後、授業科目における運動場の利用に際しては、マイクロバスのチャーター等により、教育に支障のないようかつ安全にも留意して対応していく。</p> <p>学生の課外活動に関しては、令和3年度末に学生の自治組織である校友会が発足し、今後のクラブ活動の推進が見込まれることから、運動場をはじめ施設利用に対する支援等に十分配慮していく。</p>
<p>設置計画履行状況調査結果 (令和3年)</p>	<p>教育内容の充実等を通じ入学定員未充足の改善に努めること</p>	<p>開設から2年間、学生確保が不調となった主な原因として次のことが挙げられる。初年度（2020年度）については、まず、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い広報活動（高校訪問、ガイダンス、オープンキャンパス等）の実施上で非常に大きな制約を受け、実質的な新設大学として知名度向上を期する機会が相当に制限されたことが挙げられる。また、コロナ禍で設置認可時期が大幅に遅れたことを背景に、高校や高校生への正式の案内が遅れるとともに、入試の実施時期が当初計画よりもかなり遅れることとなった（最初の入試は12月12日実施）。既に他学においては指定校選抜や学校推薦型選抜がおおむね終了しており、出足の学生確保が極めて不調となった。</p> <p>さらに、入試制度改革の初年度であることに加え、コロナ禍での経済的不安などの事情が加わったため、本学の主対象と想定する受験生層において、進学先の早期決定、併願校絞り込み等の動きが強かったものと考えられ、年明け以降における学生確保も不調となった。</p> <p>2年目に関しては、以上を踏まえつつ、早期からの広報活動推進やオープンキャンパス開催数の増加、高校訪問・ガイダンスの増加などの対応に取り組んだところである。しかしながら、結果として2年目の入学者数も、大きな定員割れとなった。</p> <p>この要因として、まず資料請求への対応が的確ではなかったこと、資料請求の内訳等の分析とそれに応じた対策が十分ではなかったことが挙げられる。例えば、本学が想定する偏差値階層よりも高い層（60以上）からの請求数が相当の割合を占めたこと、女性の請求が過半を占める（58%）などの数値となったこと、本学ホームページからの請求が非常に少なかったことなど、2年目においてはこれらに応じた対策が十分ではなかった。</p>	<p>以上の原因分析にかんがみ、今後の学生確保に係る改善の余地は非常に大きいと考えており、現在、次に掲げようような諸般の取組を進めているところである。</p> <p>3度目の入試年度となる今年度においては、現時点において少なくとも昨年度を超える入学者数確保が見込めており、今後の一層の学生確保対策の推進により入学定員数に相当する入学者確保に努めるとともに、2年次・3年次編入学生の確保にも尽力しているところである。</p> <p>①資料請求者をはじめ本学へアクションを起こしてくれた人に対するフォロー活動をタイムリーにかつ丁寧に行っている。その際、高校3年生と2年生の本学担当者を分けるなど効果的な対策のための工夫を図っている。</p> <p>②オープンキャンパスなど広報イベントを早期から定期的、開催頻度を大幅に高めて開催し、本学にアクセスしやすい環境を整えている。</p> <p>③広報イベントについて、単純なオープンキャンパスだけでなく、姉妹校との合同開催や、女子を対象とした2年生を対象としたイベント等ターゲット別のイベントにも取り組んでいる。</p> <p>④入試制度について、進路決定の早期化に対応しつつ多様な入学生を確保する観点から、総合型選抜において適性を踏まえた多様な選考を行う複数の枠組みを設けるとともに、入試日の増加や可能な範囲での早期化を図るなどの取組を行っている。</p> <p>⑤高校訪問の担当者を拡充配置し（2名の配置）、訪問活動を大幅に増加させ、高校への知名度や理解度の向上を図っている。</p> <p>⑥ホームページの改善やブログの新規開設などSNSの活用を進めることにより、本学情報の露出機会を増加させるとともに、本学ホームページからの資料請求を増加させるよう努めている。</p>

		<p>次に、知名度向上のための取組がまだ不十分であったことが挙げられる。コロナ禍が継続していたが、高校訪問をはじめ知名度を上げるための取組に一層精力的に取り組むことが必要であったと考えられる。さらに、受験生における進路決定の一層の早期化などの動きに対して、例えば、本学入試において入試時期の一層の早期化や多様化を図るといった入試・広報上の抜本的な取組が不十分で、結果として後手後手の動きとなっていた。</p> <p>総じて、初年度の失敗の要因の的確な分析とそれに基づく適切な対応策を図り生かすことが十分にできなかったと認識している。</p>	<p>⑦編入学生の確保のための取組として、専門予備校、高専、専門学校や大学・短大への資料発送、訪問活動等を推進している。その際、当然ながら、2年次編入、3年次編入の対象者の違い等を踏まえつつ取組を進めている。また、次年度においては4年次編入にも取り組んでいくこととしている。</p> <p>⑧入学生の確保や臨床工学技士のPRに向けて、姉妹校との連携を一層進めるとともに、姉妹校のOB等に向けた広報活動を活用し、志願者、編入学希望者の増加に努めている。</p>
--	--	--	---

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<医療科学部 臨床工学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD・SD活動含む)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

令和3年度の学部開設時から、医療科学部のFD委員会を設置。6名(令和3年8月までは5名)の委員で構成。既設の大学院FD委員会と連携しつつ、学部独自のFD等の取組を進めている。

b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)

第1回	2021年5月27日(木)	委員5名中4名参加
第2回	2021年6月24日(木)	委員5名全員参加
第3回	2021年7月29日(木)	委員5名全員参加
第4回	2021年8月26日(木)	委員5名全員参加
第5回	2021年9月30日(木)	委員6名全員参加
第6回	2021年10月28日(木)	委員6名全員参加
第7回	2021年11月25日(木)	委員6名中5名参加
第8回	2021年12月23日(木)	委員6名全員参加
第9回	2022年1月27日(木)	委員6名中5名参加
第10回	2022年2月24日(木)	委員6名全員参加
第11回	2022年3月24日(木)	委員6名全員参加

c 委員会の審議事項等

FD委員会の協議事項は次のとおりである。

- (1) FD推進のための企画及び実施に関すること。
- (2) FDに関する報告書等の作成に関すること
- (3) FDに関する調査・研究に関すること。
- (4) 教育内容及び教育環境の改善に関すること。
- (5) 教育技法の改善・向上のための具体的活動に関すること。
- (6) 学生による授業評価の実施・結果公表と授業改善に関すること。
- (7) 教職員の資質開発を図るための組織的な研修に関すること。
- (8) その他FDの推進に関すること。

② 実施状況

a 実施内容

令和3年度においては、次のような活動を実施した。

- ①学生による授業評価アンケート（年間2回）
- ②授業改善報告書の作成（すべての開講科目を対象）
- ③FD研修の実施
- ④専任教員相互の研究活動の理解促進のための学内研修
- ⑤学校法人による諸研修への教職員（主に職員）の参加

b 実施方法

- ①学生の授業評価アンケートは、各期の授業期間最終週に、WEB上で回答させた。（設問は6問）
設問は6問、他に自由記述式の設問あり。結果は、その概要を学内で公表した。
- ②授業改善報告書は、非常勤講師担当科目を含め全科目について、全授業回終了後に作成してもらった。
結果について教授会で報告するとともに、その概要を学内で公表した。
次年度以降の授業改善への活用方法について、今後さらに検討を進めていくこととしている。
- ③FD研修については、令和3年度は大学院のFD委員会の主導の下で5回開催され、学部教員も参加した。
- ④専任教員相互の研究活動の理解促進のための学内研修については、教授会終了後の時間帯に、
毎回2名ずつ専任教員が自身の研究活動等について簡潔に紹介を行った。
- ⑤学校法人による様々な内容・レベルの研修が年間を通じて頻繁に開催され、本学からも主に職員が
数次にわたり参加した。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

◆FD研修の実施状況

- | | | |
|--------------|------------------|-----------|
| ①2021年6月9日 | 「研究不正の防止に関する研修」 | 学部教員16名参加 |
| ②2021年7月14日 | 「個人情報の取扱いに関する研修」 | 学部教員12名参加 |
| ③2021年9月8日 | 「アクティブラーニング事例紹介」 | 学部教員7名参加 |
| ④2021年10月13日 | 「研究指導法事例紹介」 | 学部教員8名参加 |
| ⑤2021年11月10日 | 「障害者支援に関する研修」 | 学部教員7名参加 |

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

○授業評価アンケートや授業改善報告書の作成により、授業改善への教員の意識が高まっており、今後の授業改善につなげていく。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

授業評価アンケートは、原則として各セメスターごとに全授業終了時期に実施予定している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業評価アンケートについては、該当教員にフィードバックしつつ、FD委員会で総括を行うとともに、全体を取りまとめた概要を学生に対して掲示板で公表している。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

第1条 滋慶医療科学大学医療科学部教授会の下に、大学設置基準(昭和31年文部省令第28号)第25条の3に規定する組織的な研修を実施するためFD委員会(以下「委員会」という。)を置く。

2 委員会は、医療科学部のファカルティ・ディベロップメント(以下「FD」という。)、すなわち授業及び研究指導の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を行う

3 前項の対象は、医療科学部の全教職員とする。

第2条 委員会は、FD活動が持続的に実行されるよう、次の各号に掲げる事項について審議するとともに、各年度におけるFD活動を推進する。

- (1) FD推進のための企画及び実施に関すること。
- (2) FDに関する報告書等の作成に関すること
- (3) FDに関する調査・研究に関すること。
- (4) 教育内容及び教育環境の改善に関すること。
- (5) 教育技法の改善・向上のための具体的活動に関すること。
- (6) 学生による授業評価の実施・結果公表と授業改善に関すること。
- (7) 教職員の資質開発を図るための組織的な研修に関すること。
- (8) その他FDの推進に関すること。

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) 専任の教授、准教授、講師及び助教から若干名
- (2) 専任の事務職員から若干名
- (3) その他委員会が必要と認めた者

2 委員会に、委員長を置き、委員の互選によって前項第1号の委員の中から選考する。

第4条 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

2 委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を行う。

第5条 委員長は、必要と認めた場合、委員以外の者を出席させることができる。

第6条 委員会は、委員の過半数をもって成立し、議事は出席委員の過半数の賛成を必要とする。

第7条 委員会は、必要に応じ学長の指示を受け、大学院のFD委員会と合同で委員会を行い、活動を行うものとする。

第8条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は、委員会が別に定める。

第9条 この規程の改正は、学部教授会の意見を聴いて、学長が行う。

附 則

1 この規程は、2021年4月15日から施行する。

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学は、「豊かな人間性や教養と専門分野の的確な知識及び技能の上に、課題解決力、変化対応力を備えた人材を養成するとともに、我が国の将来を見据えた研究の推進を図り、もって健全な社会の構築に貢献すること」を目的としており、研究推進を図りつつも、養成人材像に即した人材を育てていくことが最も重要な目的である。

この目的の達成に向けて、昨年4月に開設してから授業科目はカリキュラムに即して開講できている（一部開講時期の見直しを行った科目がある）。

令和3年度においては、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、前期の多くの時期がオンライン授業となったが、出席率は相当程度に高い状況を維持できた。学生数がまだ少ないこともあり、令和3年度後期及び今年度は、ほぼ対面授業で実施している。

今後は、来年度から予定される外部実習や、就職に向けたキャリア教育、国試対策などの対応・準備を進めていくことが重要と認識している。

なお、完成年度までは設置認可申請書に即した教育等の実践を図っていくことが必要であり、着実に実施していく予定であるが、来年度からの対応が求められる臨床工学技士養成課程に係るカリキュラムの改正については、遺漏のないように準備を進め、カリキュラムを改正を含め適切に対応していく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・令和3年度の自己点検・評価報告書については、令和4年6月を目途に公表予定である。

b 公表方法

- ・大学ホームページ上で公開予定（令和4年6月の見込み）
- ・実習先病院・企業その他の関係先へ配布。

③ 認証評価を受ける計画

- ・既設大学院の認証評価受審に合わせ、令和5年度に受審予定。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和4年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ aで「有」の場合≫

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

≪ aで公表「無」の場合≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。